平成 30 年度　鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム報告書

海外観察・交流実習（気づく実習）
（タイ王国）

鳴門教育大学

目　　次

タイ王国

海外観察・交流実習（気づく実習）

〈コンケン大学〉

実施報告書　藤井伊佐子，湯口　雅史，佐藤　長武，日浦　雄太 …… 1

参加報告書　野ヶ山智也 …… 7

参加報告書　義友　風花 …… 11

参加報告書　東村　侑一 …… 15

参加報告書　尾﨑　文菜 …… 21

平成30年度　鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 実施報告書

海外観察・交流実習（気づく実習）

実習参加者及び引率者：氏名

教員（３名）：	教職キャリア支援センター	藤井伊佐子
	教職キャリア支援センター	湯口　雅史
	教職キャリア支援センター	佐藤　長武
職員（１名）：	教務企画課教務企画係	日浦　雄太
学生（４名）：	小学校教育専修（理科）	野ヶ山智也
	小学校教育専修（理科）	義友　風花
	小学校教育専修（図画工作科）	東村　侑一
	中学校教育専修（理科）	尾﨑　文菜

用務地：タイ王国・コンケン県

用務先：コンケン大学

期　間：平成31年２月20日（水）～２月24日（日）

１　はじめに

本学では，様々な教育環境に身を置き，意義あるプログラムを自分たちで開拓することで，教育に対する知見を広げ，教師としての資質能力を高めることを目的として，学部２年次において，「気づく実習」を希望制のオプション実習として実施している。

表１に，気づく実習の１つに位置付ける「海外観察・交流実習」の目的を示す。

表１　海外観察・交流実習の目的

１【教職理解】 海外の教育事情や学校現場，地域の文化を体験・比較することで自己の教育観に気づく。 ２【児童生徒理解】 海外の児童生徒と接することを通して，自己の子ども観に気づく。 ３【地域交流】 日本と異なる教育環境を体験することにより，自己の国際的資質に気づく。

２　研修の概要

２－１　参加者

平成３０年１月，学部１年生を対象に「気づく実習」についての説明会を開催し，実地教育担当教員による概要説明と実際に実習に参加した学生によるプレゼンを行い，参加申込書の受付を開始した。４月，４名から参加申込書が提出された。実地教育担当教員による参加申込書に記載された参加希望理由の内容について協議し，参加を認めることとした。

６月上旬，参加希望者を対象に研修内容や実施時期について説明し，参加の意思確認を行い，今回の実習参加者は，次のとおり決定した。

小学校教育専修（理科）	野ヶ山　智　也
小学校教育専修（理科）	義　友　風　花
小学校教育専修（図画工作科）	東　村　侑　一
中学校教育専修（理科）	尾　﨑　文　菜

２－２　研修日程

海外観察・交流実習は，平成３１年２月２０日（水）～２月２４日（日）の期間に実施した。研修日程は，表２のとおりである。

表２　海外観察・交流実習の日程

日順	月日（曜日）	業務地	業務内容
1	２月２０日 （水）	鳴門→中部国際空港→ﾊﾞﾝｺｸ（機中泊）	移動　高速バス，電車等 移動　TG647（NGO 発 00:30→BKK 着 05:10）
2	２月２１日 （木）	ﾊﾞﾝｺｸ→ｺﾝｹﾝ	移動　TG2042（BKK 発 10:40→KKC 着 11:40） 14:00-15:30　ﾜｯﾄ・ﾉﾝｳｪｰﾝ，見学 16:00-17:30　交流実習Ⅰ 18:00-19:30　交流夕食会
3	２月２２日 （金）	コンケン	9:30－11:00　交流実習Ⅱ 11:00-12:00　交流実習Ⅲ（大学内散策） 12:00-13:00　ランチ交流 13:30-14:30　授業観察（ｺﾝｹﾝ大附属小学校） 14:30-16:00　日本文化紹介（ｺﾝｹﾝ大附属小学校）
4	２月２３日 （土）	ｺﾝｹﾝ→ﾊﾞﾝｺｸ ﾊﾞﾝｺｸ→関空	移動　TG2041（KKC 発 8:30→BKK 着 9:25） 10:00-16:00　ﾊﾞﾝｺｸ市内観光 移動　TG622（BKK 発 23:15→KIX 着 6:25）
5	２月２４日 （日）	（機中泊）	移動　高速バス（関空発 8:40）

２－３　研修の内容と成果

①　海外観察・交流実習のための準備

平成３０年１０月から平成３１年２月にかけて，７回の事前指導を行った。本実習においては，学生の自主的な運営・計画を尊重することを確認し，コンケン大学の日本語学科担当教員や国際交流担当職員との電子メールによる連絡・交渉も含め，学生主体で計画立案し，教員はスーパーバイズに徹した。今回は，スケジュールの決定が遅くなり，それに伴い事前指導開始も遅くなったため，事前指導以外の時間を使って，学生が自主的に教材作成を行った。

実習期日が２月下旬となり，１２月初旬から具体的な準備にかかった。今回は，コンケン大学の日本語学科の学生対象に，風呂敷文化の紹介，附属小学校の小学生対象に，かざぐるま・けん玉の作成と体験，福笑いの体験という日本文化の紹介と体験を計画した。風呂敷体験対象学生への枚数確保やかざぐるま・けん玉作成材料などは，学生が購入量を計画し，教務企画課が購入し準備することが出来た。準備期間が短かったこともあり，参加学生達で役割分担し，積極的に準備活動を行っていた。

さらに，１月終わりになり，コンケン大学の学生との交流窓口をしてくださっている，高橋先生（コンケン大学）から学生同士のLINEグループ作成の提案があり，早速グループ作り，実習までLINEでやり取りしながら学生同士交流を深めることができた。

このような学生の自主的な取組は，授業の内容構成を考えたり，教材・教具の作成に関する基礎を培う活動であるといえる。また，現地の担当者と連絡・調整を行うことは，学校教員による他機関との連携の重要性の視点からも意義深い経験となった。

②　コンケン大学における交流

コンケンに着いた初日（夕方）から，交流実習Ⅰが行われた。コンケン大学の学生は授業終了後教室に集まっており，そこに本学の学生４名が合流した。そして，あらかじめつくっていたLINEグループ毎に分かれた。そして，高橋先生主導で交流Ⅰが始まった。

内容は，コンケン大学の学生がタイの特産物や観光地紹介をワークシートに日本語でまとめており，それらを本学の学生に日本語で紹介するという活動を行った。そして，各グループで紹介されたものの感想を，本学の学生が全体に向けて発表した。

交流実習Ⅰでは，初めて出会う学生達であったが，LINEでの交流が上手く働き，和気藹々の雰囲気の中，交流実習Ⅰが行われた。この，LINEグループの実習前の交流は，高橋先生の提案であったが，大変上手く機能しため来年度も実施したいと考えている。

コンケン到着２日目，９：３０より交流Ⅱが始まった。内容は，本学学生が準備した「風呂敷文化」の紹介と体験である。始め，風呂敷についての知識をプレゼンし，各グループに分かれ，４名の学生がそれぞれの包み方をレクチャーしながら，実際に包む活動を行った。前日に交流しているため，スムーズに交流できていた。

「風呂敷文化」の紹介，体験を終了し，次に各グループに分かれてコンケン大学の学生に案内してもらい，大学内の散策活動（交流実習Ⅲ）に移った。大学案内は，すべて日本

語で行うことをルール化し活動に入った。

交流Ⅰ，Ⅱ，Ⅲにより，日本とタイの文化や教育環境の違いに気づくことができた。また，活動について準備を周到に行って臨んだが，急遽予定を変更しなければならない状況もあった。しかし，本学の学生達は臨機応変に予定を変更することができたことに感心した。

③　附属小学校における交流

附属小学校では，校長先生をはじめ管理職の先生に挨拶した後，コンケン大学の教育実習生が実践する４年生の算数の授業を参観させていただいた。授業参観後，４年生対象に日本の遊び文化体験（かざぐるま，けん玉，福笑い）を行った。

算数授業については，〇授業の進め方を日本から学び実践していること　〇使用した教材，ワークシートは，日本の教科書を参考に作成したこと等を説明していただいた。学生も，教育実習生が実践しているとは思わず，大変堂々とした授業実践ぶりに感心しており，来年度の主免教育実習に向けて意欲を喚起することができた。

児童との交流では，まず全体に，日本から持参した折り紙で「かざぐるま作り」を，紙コップで「けん玉作り」を説明（英語）した。次に，「福笑い」の遊び方を説明（英語）した。その後，３つのグループに分かれて「かざぐるま作り体験」「けん玉作り体験」「福笑い体験」を説明（英語）しながら活動した。「かざぐるま」，「けん玉」は好評で，夢中になって遊んでいた。国が違っても子どもらしい無邪気な一面を見ることができた。

３　最後に

以上の交流・観察実習を経て，本実習の参加者は，タイと日本の教育事情や学校現場の共通点や相違点について実感することにより，国際理解や国際協力について認識することができた。また，附属小学校において教育実習生の授業実践を参観することで，来年度の主免教育実習参加について，教育を行うという立場を理解し，新たな課題を見出すよい機会となった。本実習は，グローバルな視点を持つ教員の育成に資する大変意義深いものであるといえる。

今後とも，意欲ある学生に学びの機会と場を提供できるように経済的な支援を含めて長期的な視点にたった大学の取組を期待するものである。

終わりに，今回の派遣を受け入れてくださり，温かく歓迎してくださった，コンケン大学教育学部日本語教育課程，コンケン大学附属小学校の関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

平成30年度　鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 参加報告書

海外観察・交流実習（気づく実習）

鳴門教育大学　学校教育学部
小学校教育専修　理科教育コース
学籍番号　17754080
氏　　名　野ケ山智也

（1） コンケン大学での活動

コンケン大学では，現地の大学生と２日間交流した。現地の大学生は同世代の日本語を学んでいる学生で，コンケン大学の教育学部に所属している。初日は班ごとに分かれて，自己紹介と簡単な交流活動（写真１）を行った。

自己紹介は非常にスムーズに行われた。なぜなら私たちは，事前にLINEを使って交流していたからである。事前にLINEでコミュニケーションをとっておくことで，お互いの緊張感もほぐれたので親密感がより深まった状態でレクリエーションへ進むことができた。

レクリエーションはコンケン大学の学生と鳴門教育大学の学生とで異なる課題が与えられた。コンケン大学の学生には「他己紹介」が課された。日本語で鳴門教育大学の学生へインタビューを行い，班ごとに得られた情報を日本語で紹介していた。自分ではなく他人の情報を正確に伝えなければならないので，相手の情報をいかに収集し，伝えられるかがカギとなる。他国の言語で行うのは非常にいい訓練になると感じた。鳴門教育大学の学生には「タイの名物紹介」が課された。これは事前にコンケン大学の学生が鳴門教育大学の学生へタイの名物を紹介し，それらの情報をもとに私たちがタイの名物紹介をするというものであった。「他己紹介」と非常によく似ており，タイの文化の理解が進んだ。

２日目は日本文化の紹介（写真２）とコンケン大学のキャンパスツアー（写真３）を行った。日本文化の紹介は私たちがコンケン大学の学生へ「風呂敷」の紹介を行った。一枚の布で様々な形状，大きさのものを包むことができることや，風呂敷の柄が華やかであること，包み方に一工夫を加えるとおしゃれに見えることがコンケン大学の学生たちが興味を示していたことではないだろうか。

キャンパスツアーでは，コンケン大学の学生がキャンパス内を私たちに案内してもらった。コンケン大学は非常に広い敷地内に多種多様な学部・学科があるだけでなく，自然史博物館や美術館なども併設されていた。また昼食をみんなで食べたので交流が深まり良かったと思う。

写真１　交流活動

写真２　日本文化の紹介

写真３　キャンパスツアー

（２）　小学校での活動

小学校では，タイの算数の授業を見学し，私たちはタイの小学生へ日本文化の紹介を行った。タイの算数の授業は日本の教科書を参考にしたものだったので驚いた。

日本文化の紹介の内容は「日本の昔遊び」である（写真４）。昔遊びの内容はけん玉，福笑い，風車である。日本の昔遊びはタイの小学生たちにとっては目新しいもののようであった。子どもたちが盛り上がっていたので，紹介する側としては非常にやりやすい環境だった。また，現地の小学校の先生に「子どもたちが今遊んでいるものをもらってもよいですか」と聞かれたということは，日本の昔遊びの紹介は成功だったのではないかと思っている。楽しいという気持ちは言語の壁を超えるのだなと思った。

写真４　日本文化の紹介

（３） 今回の実習について

当初はタイの治安や衛生面に不安を感じながら今回の実習に臨んだ。しかし実際に行ってみると優しい人ばかりで，衛生面も多少気になるところはあったものの予想よりはるかに良い場所だった。コンケンのナイトマーケットに行ったときには，コンケン大学の学生たちが駆けつけてくれて，楽しい時間を過ごした（写真５）。今回の交流がうまくいった成果だと考えている。現在もコンケン大学の学生とは連絡を取っていることからも，国の違う大学生同士の理解が深まっていることがわかる。言葉の不自由さは感じたものの，現地の大学生たちと言葉の壁を越えた友情のようなものが生まれたことは確かである。日本でも外国語教育が重視されるなか，今回の海外実習は自分にとって異文化理解を深める経験の一つとなった。

写真５　ナイトマーケット

平成30年度　鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 参加報告書

海外観察・交流実習（気づく実習）

鳴門教育大学　学校教育学部
小学校教育専修　理科教育コース
学籍番号　17754115
氏　　名　義友　風花

１　はじめに

今回の気づく実習である海外観察・交流実習では、コンケン大学の教育学部日本語学科の学生との交流、コンケン大学附属小学校での日本文化の授業、子どもたちの授業見学を主とした。以下に、実習前の準備から当日までの動きについて述べる。

２　タイに行くまでの活動について

今回の実習ではコンケン大学、附属小学校のそれぞれで、日本文化を伝える計画を立てた。そこでコンケン大学では風呂敷、附属小学校ではけん玉、風ぐるま、福笑いをすることに決め、それぞれの準備を大学で集まり行った。特に、それぞれのスライドをつくったり、けん玉・風ぐるま・福笑いはすべて手作りで行うことにしたため、小学生が一人でするのが難しい作業を準備段階で，我々が行いスムーズな体験活動が行えるように配慮した。

またあらかじめコンケンの学生さんたちのことを知っておくために、LINE を通して連絡を取り合った。

３　当日の行動について

⑴ ＜１日目：２月２１日　木曜日＞

前日の２月２０日の夜に中部国際空港を出発してバンコクに朝着いた。空港の中は冷房が効いていたためタイの暑さをすぐに分からなかったが、外にでた瞬間暑さを実感した。バンコクからコンケンへの飛行機に乗るまでかなり時間があったので空港内をまわって、軽食を食べた。コンケンに着き、ホテルまで車での移動のとき日本と違った景色でとても新鮮だった。チェックインしたあとは、ホテルで少し休憩をして観光に出かけた。

初め Wat Nong Wang へ行き、９階建ての金色でできたとても立派な建物に感動した。壁にはタイの歴史が描かれていて、また彫刻や金色を基調とした置物がたくさんあった。日本とタイでの仏教の信仰深さの違いをこの寺院で気づかされた。

次にコンケン大学に行き、今回実習を行った日本語学科の学生さんたちの授業に参加した。LINE のグループごとに分かれ、私たちはコンケンの学生さんにタイの特産品を教えてもらい、逆にコンケンの学生さんには自分のことを紹介し、お互い教えてもらったことを最後みんなの前で発表するという課題が出された。この授業のあと、学生さんと一緒にタイ料理を食べた。どんな食べ物であるか説明をしてもらい、ここではじめてタイ料理を食べた。辛い料理であると説明されたものを食べるときは、ある程度覚悟して食べた。想像以上に辛かったが、ほとんどの料理がおいしく、タイ料理が自分の口に合うか心配していたがそんな不安もこの食事でなくなった。

一度ホテルに戻り、休憩をしてから近くのナイトマーケットに行った。店が並んでいて、自分たちの気になる食べ物を買って食べた。たこ焼きと書かれたお店やお寿司、など日本の食べ物を出しているお店もあり、日本文化の伝わりを感じた。

⑵　＜２日目：2 月 22 日　金曜日＞

２日目は朝からコンケン大学に行った。風呂敷を紹介したスライドを見てもらい、班に分かれて、包むものによって包み方が違い、また包むものが同じでも何通りかの包み方があることを紹介した。楽しんで風呂敷の包み方を覚えてくれていて、とてもうれしかった。また、日本語が本当に上手で紹介するときもとてもやりやすく、理解してもらいやすかった。授業後には、そのままのメンバーで学食を食べた。カオマンガイとココナッツジュースを買い、私がオムライスが好きであることを前日の自己紹介の時に言っていたことを覚えてくれていて、タイでのオムライスを買ってきてくれたり、バナナの葉っぱに包まれたタイでのおかしを買ってきてくれたりして、タイでの食べ物をいろいろ食べることができた。昼食後は、大学内をバスに乗って案内してもらった。本当に広い大学で一周するのにかなり時間がかかったが規模のすごさを実感した。

次にそのまま附属小学校に行った。小学校では，はじめ算数の授業を観察した。日本の教科書から選んだ問題を解いていると教えてもらったが、日本の多くの学校と違い問題を解くときに最初は一人で考えてみて、その後周りの人や班の人と話し合い答えを出していくというのではなく、初めから班で話し合いながら問題を解いていた。算数の授業が終わった後、児童たちにけん玉、風ぐるま、福笑いを紹介した。コンケンの学生さんと違い言葉は通じなかったが、一緒に楽しむことができた。私は主に風ぐるまを作るグループにいたが、手作りの風ぐるまを作って、楽しそうに回している子どもたちを見て、とても嬉しく、喜んでもらえてよかったと思った。また、他のけん玉、福笑いも楽しんでもらえてそうでよかった。最後には子どもたちがお礼の挨拶のようなものをしてくれたが、これもまた日本と違ったタイの文化である礼のやりかたで驚いた。

小学校での実習が終わった後は、一度ホテルに戻り休憩をした後タクシーでトンタンのナイトマーケットに行った。多くの店が並び、またたくさんの人がいてお祭りのようだった。ここで夕食を食べ、昆虫もはじめて食べた。見た目は恐ろしかったが、味は何の問題もなくおいしく食べることが出来た。

食事した後は、自由に買い物をしたが、広くてどこに何があるのか迷っていた時に、コンケン大学の学生さんたちに出会い、お店に案内してもらいながら一緒にナイトマーケットを楽しむことが出来た。帰りはトゥクトゥクに初めて乗り、シートベルトも、ちゃんとした手すりもなく、気を抜けば落ちてしまいそうなスリルのある乗り物だったが、風を直接肌で感じることができ、とても貴重な体験をすることが出来た。

⑶実習を通して

今回の実習を通して、初めての経験をたくさんした。聞いただけではわからない、日本文化とタイ文化の違いを直接感じることができ、とても貴重な経験が出来た。日本でいるだけではわからないことを学ぶことができ、視野を広くして物事を見ることの重要性を知

り、この学んだことを今後の自分の生活にいかしていきたいと思った。

平成30年度　鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 参加報告書

海外観察・交流実習（気づく実習）

鳴門教育大学　学校教育学部
小学校教育専修　図画工作科教育コース
学籍番号　17756073
氏　　名　東村　侑一

はじめに

私にとって初めての海外渡航。現地でしか味わうことのできない様々な体験をすることができた。また交流実習としてコンケン大学日本語学科と附属小学校の 2 校へ訪問し，日本文化の伝承として授業をさせていただいた。それらの詳細を以下で述べていきたい。

1 日目

徳島県から愛知県の中部国際空港へ大阪経由で高速バス移動をした。そして中部国際空港に到着後，夕食を済ませ，深夜 12 時頃日本を離れた。飛行機で約 6 時間という長時間の移動ではあったが，映画や音楽を鑑賞できたり，朝食の提供があったりなどサービスが充実しており，快適に過ごすことができた。

2 日目

タイは日本よりも約 2 時間遅い時差があるため，深夜 4 時にスワンナプーム空港（バンコク）に着いた。やはりタイは熱帯気候に属することもあり，外に出ると蒸し暑さが押し寄せてきた。空港内は冷房が効いていたため，散策していると地べたで寝ている人が多いことに衝撃を受けた。深夜だったこともあり，空港で一夜過ごしていたのかもしれない。これがタイに着いて初めて感じた文化の違いであった。

その後，再び飛行機に搭乗し，コンケンへ移動した。飛行機の窓からコンケンの街を見ると，ほぼ平地であり，茶色の地面が目立った。また日本のような小さな山もなく，遥か先まで見渡すことができた。そしてコンケン空港に到着すると，気温は３３℃となっていた。

到着後，ホテルへ移動し荷物を置いた後，ワット・ノン・ウェンという日本で言えば城のような建物に行った。建物全体が金色であり，中に入ると仏教国を象徴する仏像や儀式が見られた。建物は９階建てとなっており，最上階まで階段で上がると，コンケンの街並みが見渡せ，日本とは違った風景を楽しむことができた。また建物の真下には学校があり，校庭に全校生徒が並び，先生の言葉に従って動作をしている光景を目にした。もしかするとこれも仏教国の慣わしだったのかもしれない。

その後，コンケン大学へ出向き，日本語学科２年生の学生さんと交流をした。事前に SNS を通じてやりとりをしていた方たちと班になってまず自己紹介をした。日本語の先生を目指している方々ということもあり，私の予想を上回る日本語の流暢さに驚かされた。また交流の中でなぜ日本語の先生を目指しているのかを聞いてみると，日本のアニメや俳優が好きだからという答えが返ってきた。これほどまでに日本文化が浸透していることに改めて日本の良さや魅力を再確認させられた。

交流後は現地のご飯をバイキング形式でご馳走していただいた。私は香辛料の効いた料理が好きで，タイでも不便なく食べられるだろうと思っていたが，その想像を超える辛さであった。特にレッドオニオンの辛さが強く，今でも忘れられない。だが料理自体は美味しいものが多く，学生さんにおすすめを聞きながら食べることができた。

その後，コンケン大学を離れホテルへ戻った。しばらくホテルで休んだ後，近場のナイトマーケットへ行った。ここのナイトマーケットは日本の屋台に近い雰囲気であったが，物価は日本よりも格段に安いため焼き鳥であれば１本 30〜40 円で売っていた。だが味はやはり日本と違うと感じることがあり，独特な香辛料がどの料理にも効いていた。慣れたらより美味しく食べられるようになるだろうと感じた。

この二日目は時差の遅れもあって非常に密度の濃い一日を過ごすことができた。かなりの疲労感ではあったが，翌日が実習ということもあり４人で打ち合わせをした後，眠りについた。

３日目

早朝からホテル近辺の市場を散策した。ナイトマーケットとは違い，料理として加工される前の産物が多く売られていた。中には蛙やタガメ，ネズミなど日本では食用としてあまり見られないものが当然のように売買されており，その光景は衝撃的であった。

午前中は再びコンケン大学へ向かい，「風呂敷」を題材とした授業を日本語学科の学生さんに向けて行なった。この授業をするために数か月前から念入りな打ち合わせをしていた。ある程度の日本文化を知っている学生さんにとって風呂敷をどのように紹介すれば，楽しんで学んでもらえるかを話し合いながら，試行錯誤した。また日本語の勉強も兼ねてできるようにも考えた結果，ただ風呂敷の包み方を覚えるのではなく，その包み方を日本語で説明できるようになるまでを目標として活動を組んだ。これに学生さんは苦戦をしながらも包むのに必要な動作「折る」「結ぶ」「持つ」などの単語を発音に気をつけながら，自身で説明することできていた。最後にも風呂敷をプレゼントすることを伝えると喜んでくれたので良かった。

授業後は学生さんと学食へ向かった。コンケン大学の学食はフードコートのように様々な食べ物を売る店に分かれており，私が食べたいと言っていたカオマンガイのお店を紹介してくれた。カオマンガイは味つけされたタイ米に鶏肉がのった料理であり，日本人にとっても馴染みのあるような美味しさであった。その後，大学敷地内を無料で回るバスに乗車し，大学案内をしていただいた。コンケン大学は総合大学ということもあり，非常に敷地が広く，日本で言えば一つの町ぐらいの広さであった。そこでも多くの学生さんと交流することができ，充実した時間を過ごせた。

午後からは附属小学校を訪問した。対象は小学４年生であり，まずは算数の授業を観察した。タイの算数は日本の教科書を取り入れた内容であるらしく，授業の流れ自体は日本と類似している点がいくつか見受けられた。観察後は私達が日本の遊びを子どもたちに教えた。内容は「けん玉」「風車」「福笑い」の３つで私は「風車」を担当した。子どもたちは糊づけをしたり，つまようじを刺したりする作業に苦戦しながらも，完成して上手く回ったときには満面の笑みで喜んでくれたので良かった。他の遊びも大変盛り上がり，この授業も順調よく成功したように思える。

そして小学校を離れ，再びホテルへ戻った後，トンタンのナイトマーケットへ向かった。

行きはタクシーで，帰りはトゥクトゥクを使って移動した。トゥクトゥクはタクシーに比べ，少し割高ではあるが開放的な乗り心地で，スリリングな体験をすることができた。ここのナイトマーケットでは先程交流した日本語学科の学生さんとも出会い，おすすめのお店を教えてもらいながら，楽しく回ることができた。学生さんとは２日間非常に親しく交流することができ，私達がまたタイに行くもしくは学生さんが日本に遊びに来たときは再度会うことを約束することができた。

４日目

この日は早朝からコンケン空港を出発し，バンコクへ向かった。スワンナプーム空港から鉄道や遊覧船を乗り継ぎ，王宮に到着した。門の入口に入る前から多くの観光客で行列ができていた。受付までたどり着くと，入場料 500 バーツを払った。この国で 500 バーツというとかなりの値段なので，それほどの神聖な場所であるのだと実感させられた。また門に入るのにも適正な服装であるかのチェックがあり，半ズボンやミニスカートなど足を露出したものは禁止になっていた。そして中に入ると，仏教国を象徴する金色で覆われた建造物が立ち並んでいた。この日は時間の都合上，ここだけしか行けなかったが，また機会があればバンコクのあらゆる観光スポットを回ってみたいと思う。

最後に

事前から海外渡航の注意喚起を聞いていたのもあり，不安を覚えていたが，実際に行ってみると現地の人の温厚さや優しさに包まれ，非常に充実した時間を過ごすことができた。実習の事前準備は現地の様子があまり把握できない中での準備だったので，かなり苦労したが結果的には２校とも成功したのではないだろうか。

この実習において現地の小学校で授業できたという経験は小学校教員を目指す私にとって大きな糧になったと感じる。国際交流を目的にした教材研究や授業観察で得た学びは半年後に迎える教育実習でも積極的に活用していきたい。

平成30年度　鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 参加報告書

海外観察・交流実習（気づく実習）

鳴門教育大学　学校教育学部
中学校教育専修　理科教育コース
学籍番号　17754026
氏　　名　尾﨑　文菜

１．出発前の活動について

海外実習に参加する学生と先生方で何度か打ち合わせを行い，実習を通して何をしたいか，タイの学生にどんなことを伝えたいかなどを話し合いました。特に，コンケン大学の日本語コースの学生や附属学校の小学生に向けた日本文化の紹介については，よく話し合って内容を決めました。その際に，昨年に実習に参加した先輩方にアドバイスを受けたり，タイからの留学生の方にお話を伺ったりしました。また，コンケン大学の学生には風呂敷文化を，小学生には日本の遊び(けん玉，風車，福笑い)を紹介することになり，風呂敷の包み方や紙コップけん玉・風車の作り方をマスターできるように何度も練習しました。

さらに，実習に行く前から LINE を使ってコンケン大学の学生と連絡をとっていました。自己紹介から始め，タイのおすすめの食べ物や観光地を聞いたり，はやっている音楽やドラマについて話したりすることができ，早くタイに行きたいという気持ちが高まりました。

２．タイでの実習について

①　コンケン大学日本語コースの学生との交流

日本語コースの学生には，予定されていたタイ２日目の実習前の１日目の夕方に初めて会いました。いきなり予定が変わったので最初はかなり不安でしたが，二日間会うことでたくさん話すことができ，より仲良くなれたと思います。具体的な活動としては，１日目はLINEのグループごとに集まって自己紹介をした後に，コンケンの学生が私たち日本の学生を，日本の学生がタイの特産品の紹介を，それぞれ日本語で聞き合ってクラス全体で発表しました。はじめはみんな緊張していたけれど，日本語コースの学生さんはとても日本語が上手で，会話も弾んで盛り上がりました。

また，そのあとに大学内で学生と一緒に夕食を食べました。学生さんの説明を聞きながらグリーンカレーなどのタイ料理を味わうことができましたが，私はトッピングの唐辛子で体調不良になったのでタイの辛さをなめてはいけないなと思いました。

二日目は予定通り風呂敷文化の紹介をしました。まずは班ごとにペットボトルや箱などの包むものを決めて包んで，そのあとに日本語を使って他の班に包み方の紹介をしてもらいました。難しい包み方もあったけれど楽しかった，家でも包んでみたい，と言ってもらえたので私も嬉しかったです。その一方で，結び方の名前（真結び，一つ結び）やほかの包み方を聞かれたときに自信をもって答えられなかったので，教える側の私たち自身も日本文化についてもっと詳しく知っておく必要があると思いました。

また風呂敷文化の紹介のあとに，大学の食堂で昼食をとり，学内を大学のバスに乗って紹介してもらえました。コンケン大学は鳴教大よりはるかに広く，農場や恐竜博物館，美術館に演劇場など多くの施設があってとても驚きました。

② コンケン大学附属小学校での実習

二日目の附属小学校での実習では，授業観察と日本の遊びの紹介を行いました。まず最初にコンケン大学の実習生による算数の授業を参観しました。授業で使われている言語はもちろん，配られた指導案もタイ語だったので戸惑いました。しかし，子どもたちの様子や日本語コースの学生による通訳のおかげでおおよその授業の流れは理解することができました。授業のあとに，日本の授業方法を模倣していると聞いたので，それもあって理解できたのかなと思いました。また，一人一つの机を使うのではなかったり，床に座って授業を受けたりするなど日本の授業との違いも感じることができました。

日本の遊びの紹介では，言葉が通じないこともありましたが，実際にやって見せたりすると反応があって良かったです。班に分かれて実際に遊んでもらう場面では，英語の短い単語で説明すると分かってもらえたり，一緒に遊びを楽しんだりすることができてとても嬉しかったです。帰るときに道具などを渡すと喜んでもらえたので，日本の遊びを紹介することにして良かったです。

３．実習を終えて

この実習を通して今までしたことのないことをたくさん体験することができました。コンケン大学や附属小学校での実習のほかにも，寺院を観光したりトゥクトゥクに乗ったりすることで異文化を体感することができたことも思い出の一つです。これからもこの経験を活かして様々なことに挑戦し，多くのことを学んでいきたいです。

平成 30 年度　鳴門教育大学
グローバル教員養成プログラム報告書
海外観察・交流実習（気づく実習）
（タイ王国）

発　　行　　令和元年　5 月
編集・発行　　鳴 門 教 育 大 学
〒772-8502
徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748
印　　刷　　㈱徳島印刷センター